

2017. 1. 1

謹賀新年



盆地状の矢掛で日の出が見えるのは南側の玉島との境にある弥高山 (302M) だけ。かつては牧場だったのが今ではソーラーパネルに埋め尽くされている。

そこから見晴るかす正面右側には水島の工場地帯、太陽は左側の山陰から昇る。今年は喪中ということもあり、やや遠慮して、太陽が空に浮かんだ時点を撮影した。と言うのは言い訳で、実は寝過ごした。

7:15

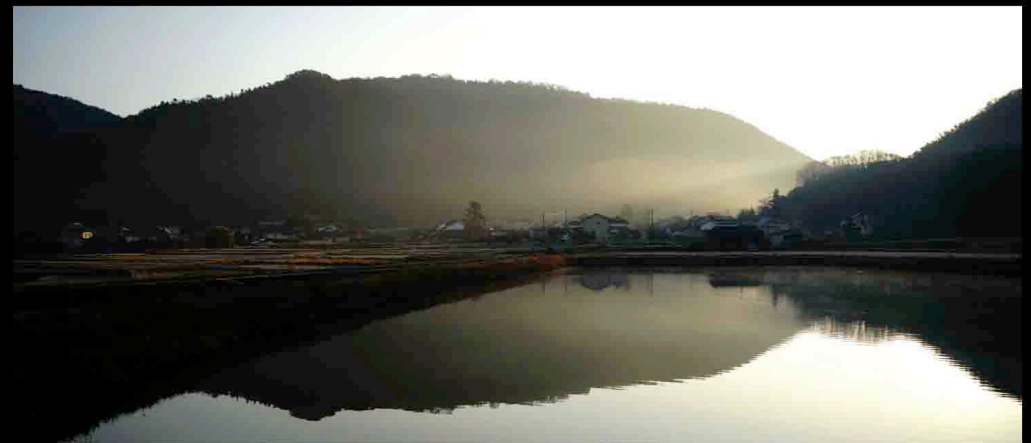




7:30

弥高山で日の出を見たあと矢掛へ戻る。すると、昇った太陽が、玉島との間を遮る山並みの峠の部分からこちら側に溢れ出し、柏木池を輝かせ始めている。

さらにしばらくすると光があたり一带に広がり、色が変わり、池の情景はさらに大きく変化する。同じ場所において同じ場所とは思えない。





柏木池から南西の舟木谷の奥に禅寺
洞松寺が見える。

その寺の背後から白い煙がもくもく
と上がっている。ちょっと尋常な量の
煙ではない。

糸魚川の火災を思い出し、参拝がて
ら見にゆくことにした。

7:35

すると何のことはない。
朝食の炊事をしている釜戸
の煙突から真っ白な煙がも
うもうと上がっているのだ。

正月元旦の今朝も朝の4
時から勤行があり、これか
ら食事ということなのだろ
う。おせち料理は出るのだ
ろうか？下世話なことが気
になったが、谷間の冷たい
空気の中に広がる白い煙の
暖かさが何より豊かな朝餉
を約束していると見えた。

今、この、世間から隔絶
された寺には25人の外国人
修行僧が滞在し、戒壇取得
の修行に励んでいる。



偶然洞松寺を参拝して帰ろうかと思ったが、もう少し脚を伸ばせば少しは初詣客のいそうな吉備真備公園に寄ることにした。大晦日の岩山神社でも神主さんと氏子代表の5～6名しかいなかったのが正月気分が湧かない。

小田川沿いを下ると先ほどの山越えのあふれる光が今度は猿掛山を舞台に流れ込んできていた。

公園の駐車場には車が5台ほど。昨秋に聞き書きをした保光会の皆さんが元旦祭に集まっていた。聞き書きの中で若者の神社離れが嘆かれていたが、それを80歳を越えるシニアが何とか補っている。正月早々こうしてかり出されるのでは無理もないかもしれない。シニアの分担だろう。

曲がりくねって踊っているような枝が見事なエンジュの木の向うに猿掛山が迫っている。この山で今月末に山城散歩を実施する。一体何人集まるのか？今回は江戸時代に先立つ400年近く城主だった庄氏の末裔の方も参加する。

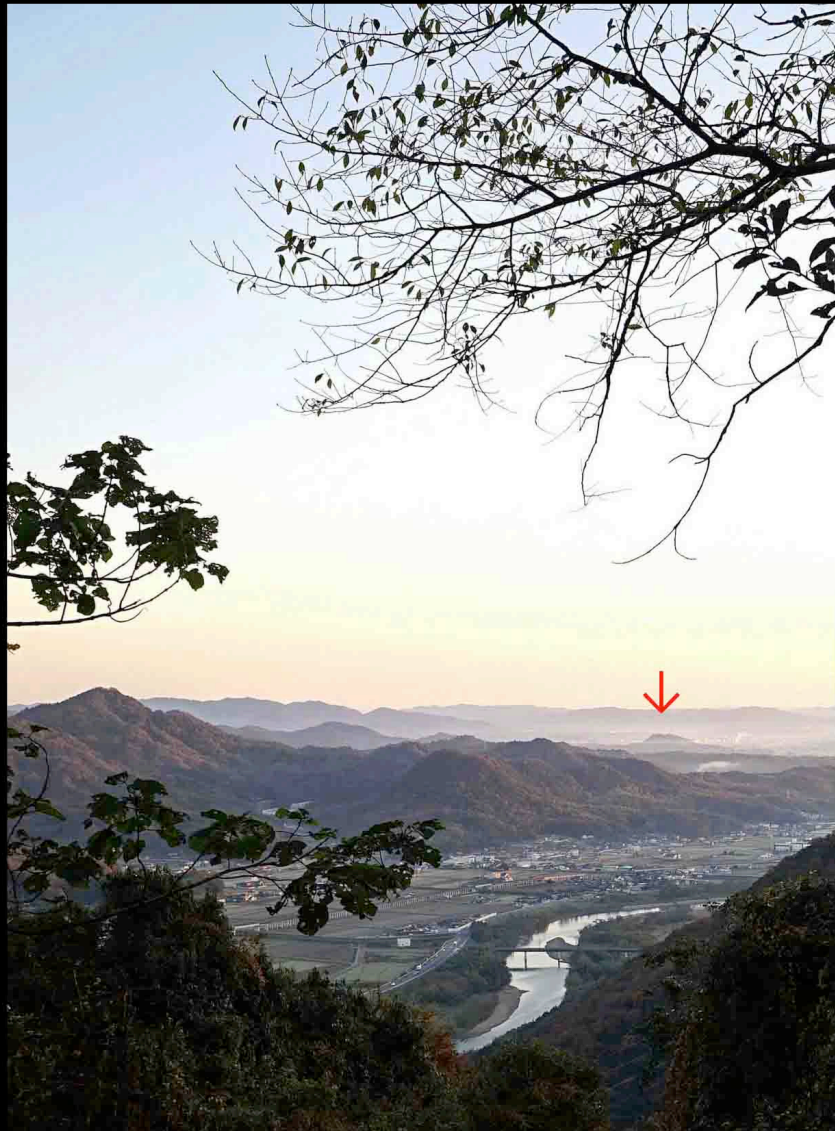


8:00



聞き書きの中で保光会の副会長さんは「吉備真備公を知ること子どもたちが矢掛の地理や歴史に興味を抱き、将来学者や政治家をめざす知識や意志を豊かにし、偉大な人に対して尊敬の念をもてるようになるのに貢献したい」と言っていた。厳寒の明け方、日を浴びて、凍りついた霜が解けかかってキラキラと光る巨大な吉備真備像を見上げて、確かにすごい人がいたもんだと納得した。残念ながらこの時間、初詣客は3人だけだった。

8:30



ついで、というのも何だがふとその気になって、小田川対岸に渡り、猿掛城(243M)に登ることにした。元旦から予定外の行動が続くが、月末の散歩を前にルートを確認するという必要もある。麓からほぼ20分で、かつて城の有った稜線に辿り着く。そこからは東西に続く旧山陽道が見下ろせる。この山城には高松城水攻めの折には毛利輝元方の本陣がおかれていたが、ここから高松城は見たのか?という宿題も有った。結果は、高松城は赤い矢印で指した小さな突起の影ではなかったかと思われた。ということは城の姿は見えなかったということだ。しかし、見えないながらも水で囲まれた城を想像し、切齒扼腕するには恰好の場所だ。

納得して、ご来光の参拝に発した元旦の朝の活動を終えことにした。